

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-14948

(43)公開日 平成6年(1994)1月25日

(51)Int.Cl.⁵

A 6 1 F 5/03
5/02

識別記号

庁内整理番号

Z 7108-4C
G 7108-4C

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平5-65151

(22)出願日 平成5年(1993)3月24日

(31)優先権主張番号 P 4 2 1 1 0 2 3 : 8

(32)優先日 1992年4月2日

(33)優先権主張国 ドイツ (DE)

(71)出願人 593057654

パウエルファイント ゲーエムベーハー
ウント ツェーオー
Bauerfeind GmbH & C
o.

ドイツ連邦共和国 ヴェー 4152 ケンペ
ン 1 ポストファッハ 100320 アルノ
ルドシュトラッセ 15

(72)発明者 ハンス ベー パウエルファイント

ドイツ連邦共和国 4152 ケンペン 1
ヴィーゼンシュトラッセ 18

(74)代理人 弁理士 川上 肇

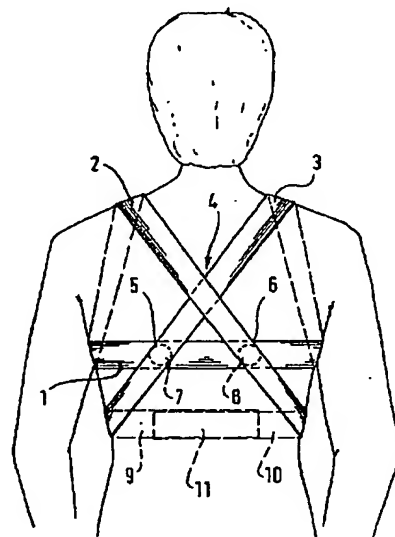
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 鎖骨用単一包帯

(57)【要約】 (修正有)

【目的】背中を横断して延長する背帯1と、その背帯に連続してわき下から鎖骨を越えて延長する肩帯2、3とからなり、その肩帯は背帯の中央の領域4において交差しかつ腰の外側から腹へ回って連結端部9、10に延長する鎖骨用単一包帯であって、鎖骨の治療処置に有用なものを提供する。

【構成】包帯を非弾性帯材から形成し、両肩帯2、3を背帯1の背骨から外れた両側の相互に離れた位置において背帯1に重合し、その重合箇所5、6にいが状結合を形成し、そのいが状結合のいが状部分7、8を背帯に、外被部分を肩帯にそれぞれ設け、その外被部分によって相手のいが状部分を完全に覆うようにした。



1: 背帯、2、3: 肩帯、4: 交差箇所、5、6: 重合部分
7、8: いが状部分、9、10: 端部、11: いが状結合

【特許請求の範囲】

【請求項1】背中を横断する背帯(1)と、前記背帯に接続された複数の肩帯(2、3)とを備え、前記肩帯はわき下を通り、鎖骨上を越えて延長し、前記背帯の中央の領域にある交差箇所(4)において交差し、前記肩帯の連結端(9、10)は両側から腰を回って下腹へ延長し、そこで、いが状結合(11)を介して相互に連結する単一包帯であって、前記単一包帯は非弾性帯材からなり、前記肩帯(2、3)は背骨から外れた両側の相互に間をあげた位置において前記背帯に上から重なり、その重合箇所(5、6)にそれぞれいが状結合を形成し、前記いが状結合のいが状部分(7、8)は前記背帯(1)上に、外被部分は前記肩帯にそれぞれ設け、前記外被部分は前記いが状部分を完全に覆うようにしたことを特徴とする鎖骨用単一包帯。

【請求項2】全体をいが状結合(11)のいが状部分と結合可能な外被部分として形成したことを特徴とする請求項1記載の鎖骨用単一包帯。

【請求項3】肩帯(2、3)の交差箇所(4)が背帯(1)の上方にあって背帯とは重ならないように、前記背帯(1)上のいが状部分(7、8)の相互の間隔を保持したことを特徴とする請求項1又は2記載の鎖骨用単一包帯。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は鎖骨用のワンピース包帯に関するものであり、その包帯は背中を横切って延長する1本の背帯と、わき下を通り鎖骨上を越え、さらに延長して背帯と連結する複数の肩帯を備え、その肩帯は背帯の中央部分の交差箇所において交差して腰から下腹にいたる連結端まで延長し、そこでその連結端はいが状結合によって相互に連結する。

【0002】

【従来の技術】このようなコルセットとしての包帯はドイツ実用新案第1932745号によって公知であり、姿勢改善手段として用いられている。この目的のため、その包帯は弾性帯材から構成され、その肩帯は背帯の中央の上においてゆるく交差する。そのバンドは追従性がよいため、バンド着用者が背を曲げると、このバンドは着用者に背の曲げがさらに大きくなるような圧力を加えるが、そのことによって、着用者にその姿勢が健康上望ましくないものであることをある程度気づかせるから、そのバンドは「警告バンド」とも呼ばれている。しかし、肩帯と背帯の交差は遊びがあるので、肩帯と背帯の交差位置を調整可能にすることが強く要望されていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は肩関節脱臼又は鎖骨骨折等の患者に対して鎖骨に圧力を加える特別な治療処理を可能にする単一包帯を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】この目的を達成するため、本発明は包帯を非弾性帯材から形成し、その複数の肩帯を背帯上の背骨から外れた側方の相互に間隔をあげた位置に配置し、両帯の重合位置にいが状結合を形成し、そのいが状結合のいが状部分を背帯の上に、その相手の外被部分はいが状部分を完全に覆う肩帯に形成する。

【0005】

【作用】この包帯の構成により、包帯は患者の身体に適する一様なテンションを生ずることが可能であり、そのための背帯と肩帯の必要な長さは肩帯のいが状結合の外被部分をいが状部分に合わせて背帯に押しつけるだけで簡単に自動調整され、その結果、このように形成されたいが状結合の関係位置は包帯を多少固くしめつける肩帯によっておのずから定まる。いが状部分は肩帯によって完全に被覆されるため、いが状部分が患者の衣服に対して好ましくない引っかきを及ぼして衣服を損なうようなことはありえない。肩帯の両端部のいが状結合を圧着することによって包帯は結合するから、患者の身体に包帯を全体として満足いくように付けることが可能である。鎖骨に加わる張力は一様であり、包帯は主として肩帯と背帯の領域においてそのいが状結合を介して取り付けられ、そのいが状結合は包帯に作用する引っ張り応力を順次吸収してその取付けを確実にする。

【0006】包帯全体をいが状結合のいが状部分と結合可能な外被部分として形成することも可能である。この場合、背帯に設けるいが状部分によって肩帯の長さを制限する必要はなくなる。肩帯の交差箇所が背帯の上方の背帯とは重ならない位置にあるように背帯上にいが状結合を設定したとき、肩帯の位置は特に好ましいものとなる。この場合、肩帯はわき下と鎖骨に密着し、包帯は治療する鎖骨に対して特に均一な張力を作用する結果となる。

【0007】

【実施例】図1及び図2に示す単一包帯は背骨を横断する背帯1を備え、その背帯から2本の肩帯2、3が図に示すとおり患者のわき下から胸を越えて両肩に至る。それから、肩帯2、3は肩の鎖骨領域を背中の方向に越え、背骨上の交差箇所4を経て背帯1まで延長し、背帯を重合部分5、6において越える。破線の円で示すいが状結合のいが状部分7、8は背帯1の重合部分5、6の外面に設けられ、その上に肩帯2、3の内面を押し付ける。肩帯2、3のこの内面にはそれぞれ外被部分を形成し、それらをいが状部分7、8に接着し、それらにより背帯1と肩帯2、3を強固かつ脱着可能に結合する。重合部分5、6から先の肩帯2、3の部分は患者の腰に達し、ついで下腹へ回って両端部9、10となり、その両端部は下腹の中央において、いが状結合11によって相互に結合する。図2に詳細を示すように、そのいが状結

合は一方の端部内面の外被部分と他方の端部外面のいが状部分からそれぞれ形成される。交差箇所4は背帯1の上方の背帯と重ならない位置にある。これは重合部分5、6すなわちいが状部分7、8を離間させ、それによって患者の背骨を山形に覆い、肩帯2、3は腰の領域の比較的高い位置にくっつき、それからいが状結合11によって患者の下腹の回わりで結合する。

【0008】この包帯を巻くとき、始めに背帯1を患者の背中に回わし、2本の肩帯2、3を胸側から肩越しに下げる。それから、患者の背中から垂れ下がる肩帯2、3を手でつかみ、背中において交差させ、腰へ回わし、ついで腰バンドのように腹に回していが状結合で相互に結合する。包帯に必要な張力は背帯1上で肩帯2、3の両端部9、10を固く引くことにより得られ、それによって、肩帯2、3をいが状部分7、8に押し付け、背帯1と肩帯2、3の補完的な結合を形成する。端部9、10を引いて、肩帯2、3の張力を端部9、10がいが状結合11によって相互に結合するまで張力を保持する。

【0009】図示した包帯は非弾性材からなるから、包帯に作用する張力は常に均一性を保ち、それによって肩帯2及び又は3による所望の鎖骨に対する治療効果を生*

*み出しかつ維持する。少なくとも肩帯2、3と端部9、10の身体側はいが状結合の外被部分として形成されるから、どのような長さの肩帯2、3であっても背帯1上のいが状部分7、8に押し付けることによって調整可能である。このように、その外被部分はいが状結合11のいが状部分を完全に覆うから、いが状部分が包帯の上に着用した衣服を損なうおそれはない。

【0010】

【発明の効果】上記のとおり、本発明の非弾性帯材からなる包帯は、従来の弾性材からなり、着用者の姿勢によって鎖骨に作用する張力が変化するものとは異なり、常に鎖骨に均一な張力を作用するから、鎖骨の治療処置に有用であるという優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

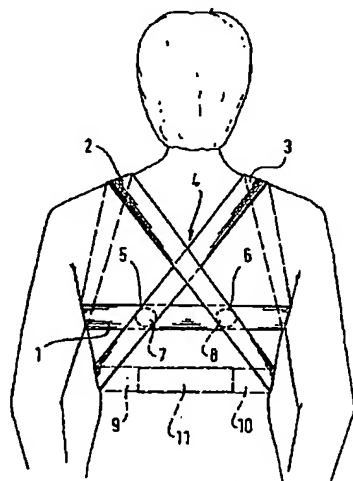
【図1】 本発明の包帯を付けた患者の背面図、

【図2】 図1の患者の正面図、

【符号の説明】

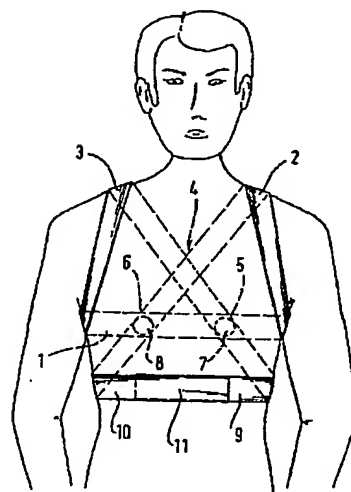
1：背帯、2、3：肩帯、4：交差箇所、5、6：重合部分、7、8：いが状部分、9、10：端部、11：いが状結合

【図1】



1：背帯、2、3：肩帯、4：交差箇所、5、6：重合部分
7、8：いが状部分、9、10：端部、11：いが状結合

【図2】



フロントページの続き

(72)発明者 ライネル ショイエルマン
ドイツ連邦共和国 ヴェー 2300 キール
ノルトドイチェ シュトラッセ 23